

1) 活動の背景

～地域の状況やまちづくりの現状など

鴻沼地域の状況

こうぬま・水と緑を楽しむ会の主な活動フィールドである鴻沼地域は、JR埼京線と野本町～中浦和の間に位置する。この地域は、西を高沼用水西縁、東を高沼用水東縁、中央を鴻沼川が流れる、南北約3km、幅約800mの田園地帯である。元々、江戸時代半ば頃までは湿地だったが、約270年前に干拓されて以降、水田として営農が続けられてきた。元が湿地という地理的条件から、戦後、周囲の市街化が進む中、この地域は市街化調整区域として大規模な開発は行われてこなかった。しかし、1985年のJR埼京線、新幹線の開通とともに急速に地域の都市開発が進み、田んぼの多くは宅地や駐車場等に姿を変えてしまった。それまで水を満々と湛えていた水田が埋められ、構造物が建ってしまった結果、今では洪水頻発地帯となっている。1998年の洪水では、旧建設省（現国土交通省）の激甚災害緊急特別事業の指定を受け、緊急に鴻沼川の河川改修工事が行われている。しかし、都市開発の流れは衰えを見せないため、洪水と河川改修工事はいたちごっこが続くと予想されている。



高沼用水の状況

このように、田んぼが次々と姿を消す一方で、東西に残された用水は、土や木の護岸の、昔ながらの風景を今に残している。しかし、営農をつづける農家の減少から、2000年に水利組合が解散、現在、さいたま市管轄の河川として、測量や河川整備計画の検討が始まろうとしている。農業用水としての役目を終えた今、この用水の意味が問われている。

2) 活動の経緯と目的

～この活動が始まったきっかけや、活動の目的

きっかけ

市街地に残された懐かしい風景の残る高沼用水を見つけ、歩いてみると、用水のすぐ周りでは無秩序な宅地化が進んでいた。「私たちのまちは、このままでいいの?」と思ったのがきっかけで、会の活動はスタートした。

活動の目的

活動の目的は、みんなが心地よく暮らせるまちを、自ら手を動かすことで作っていくことを目的としている。活動初期にKJ法などで3つの方針をまとめ、これを柱に様々な活動を展開している。

1. 身近な自然を守り、作り、楽しもう
 - ・トンボ池づくり、用水護岸補修、井戸・水辺のデッキづくり
 - ・休耕地を借りた畑づくり
 - ・地元の子供たちとの水と親しむイベント、定例の保全・維持作業 など
2. 活動の輪を広げて成果を上げよう
 - ・総合的学習の時間や環境教育実習、生涯学習講座等、地域の学校教育との連携
 - ・鴻沼川多自然型川づくり検討委員への参加
 - ・行政への働きかけとパートナーシップづくり など
3. 環境汚染をチェック、阻止しよう
 - ・環境調査（生物、水質等）
 - ・清掃活動
 - ・勉強会、講演会 など

3) 活動の内容

～活動の内容を具体的に紹介し、活動の特徴となっている点を上げる。

鴻沼河童探検隊

鴻沼河童探検隊は、高沼用水の清掃、護岸整備、架橋、トンボ池、畑づくりなどを一般参加で行うイベントの名称である。大きなイベントとしては年に3回程度実施しており、毎回80人ほどの参加がある。各イベントでは、必ず成果が形に残るよう企画している。例えば、丸太橋づくりのさいは、横に渡した丸太の木口に参加した子ども達がそれぞれ自分の名前を書くようにした。たったこれだけのことで、子供は学校の友達を現地に連れてきて「この橋、オレが作ったんだぜ！」と鼻高々に自慢する。また、大人にしても、自分の掘ったトンボ池にトンボは来ているのか、植えた種はちゃんと芽を出しているか、気になってよく見に来るようになる。成果を現場に残すことにより、場所に対する思い入れや関心が向上し、結果、自らのまちを自らの手でつくる意識が参加者に浸透すると考えている。また、子ども達が楽しく参加できるよう、ネイチャーハントやスタンプラリー、川中運動会などの企画も実施している。

丸太橋の架橋(1999)

用水に架かっていた、朽ちた農作業用の橋に替わり、丸太橋を架けた。

トンボ池造成 1 期工事(1999～2000)

トンボ池造成 2 期工事(2003～)

かつて地域に広がっていた田んぼを代表する生きものの一つである、トンボのための池を造成した。

揚水ポンプデッキの設置(2000)

用水からトンボ池に水を揚げるためのポンプとデッキを設置した。

高沼用水西縁護岸整備(2000～)

高沼用水東縁護岸整備(2002～)

大雨の際、水流が早く浸食している箇所について、木と竹による護岸工事を行った。

畑作り(2001～)

土地の持ち主の方が亡くなったために荒れていた畑を、よみがえらせた。

休耕田を使ったレンゲ畑づくり(2001～)

除草のために農薬が毎年播かれていた田んぼを復活させるため、レンゲ畑づくりを行った。

レンゲ畑サインづくりワークショップ(2002～)

レンゲが育つまで、地域の方が見守ってくれるよう、看板づくりのワークショップを行った。

地域自治会と協働によるレンゲ畑花見会(2002～)





環境学習・総合的な学習

地域とのつながりが一番深いのは、親より子供であるといえる。子どもは、1日、1週間のほとんどを、地域の中で過ごす。地域を利用する一番の顧客であるといえる。子ども達に、地域の楽しさ、まちの仕組み、身の回りの環境について、学び、自分が地域を構成する一員であることを確認・発見するために、環境学習や総合的な学習の時間を大切にしている。

さいたま市立中島小学校総合的学習の時間コラボレーション(2000~)

地元小学校5年生の総合的学習の時間のうち、地域と環境をテーマにしたグループと一緒に、トンボ池づくりや用水マップづくり等を行った。

埼玉大学教育学部とのコラボレーション(環境学習野外授業)(2001)

先生の卵である教育学部学生の環境学習実践の場として、子ども達と共に環境教育プログラム・プロジェクトワイルドを実施した。

埼玉大学教育学部生涯学習特別講義(2001)

将来、地域をより豊かにするために重要な役割を果たす生涯学習専攻の学生に講義を行った。

小学校ふれあい祭り参加(1999,2002)

地元小学校の実施したふれあい祭りに参加、校内でネイチャーハントやクラフト工房を開いた。



講演会、学習会

護岸工事やトンボ池づくり、環境学習などの活動が、それぞれどのような意味を持ち、まちづくりにどう繋がっていくかを確認するために講演会、学習会を行っている。

市民参加の川づくりまちづくり講演会(2000)

鴻沼川で行われている激甚災害特別緊急事業がどういったものか、また、生き物と共生した川づくりやまちづくりの最先端技術と、市民参加について学ぶ連続3回の講演会を行った。

芝浦工業大学オープンテクノカレッジシンポジウム、パネリスト参加(2001)

芝浦工業大学の市民参加のまちづくりをテーマにしたシンポジウムに参加した。

三つ又沼・びん沼見学会(2002)

鴻沼の本流である、荒川の昔の姿を今に留める三つ又沼とびん沼の見学会を行った。



市民・行政・教育・企業参画型まちづくり

鴻沼川多自然型川づくり検討委員会参画(2001)

さいたま市総合振興計画審議会委員参加(2002~)

さいたま市環境審議会委員参加(2002~)

地域企業の文化祭に参加(2002)



4) 活動の成果

- ・自分で手を動かすことで、具体的にまちが変わっていく、という実感や意識が、参加者や会員、地域住民の間に定着しつつある。
- ・具体的な作業で、実績を着実に、形に残したことにより、会に対する行政や地域での信用が高まっている。
- ・高沼用水の整備計画を今後進めるに当たり、市民参加で計画づくりを進める見通しとなった。
- ・鴻沼地域を縦断するJR埼京線・新幹線高架沿いの環境空間のについて、さいたま市が市民参加による緑地づくりを進める見通しとなった。
- ・鴻沼川の河川改修において、多自然型河川整備を、市民参加で進めることとなった。

5) 今後の展開

NPO 法人化

高沼用水整備計画、びん沼川の将来像づくり調査、環境空間緑地整備計画など、行政の当会に対する期待が高まっている。本格的に事業を受託する可能性もあり、今後、NPO 法人化もふくめた、組織のあり方に関する検討が必要となる。

市民と行政のレベルアップ

3市合併以降、市のまちづくりの基本方針である、市民と行政のパートナーシップによるまちづくりを推進するために、ワークショップなど合意形成のための手法を行政、参加する市民共に学ぶ必要がある。

環境空間緑地整備について

近く、環境空間の緑地整備を市民参加で進める見通しとなっている。これを、より確かな手法で地域の活動とするため、市民の参加意識の向上やレベルアップなど、市民参加事業の本格化に向けた底上げを図りたい。

南与野駅前区画整理事業に伴う用水の付け替えについて

現在、南与野駅前で行われている区画整理事業に伴い、高沼用水西縁の一部が付け替えられ、部分的に暗渠化する予定となっている。付け替えの場所や工法について、生き物の視点から様々な提案が必要である。

高沼用水整備計画について

高沼用水は、今年度より整備計画策定のための基礎調査を行っている。流域住民がより主体的にこの計画に携わることができるよう、基礎調査への市民参加などの提案やコーディネートを行いたい。